

逆走対策技術カタログ  
～物理的・視覚的対策～

【技術名】

防眩板応用注意喚起

1.基本事項 (1 / 3)

技術番号	No.2		
技術名	防眩板応用注意喚起		
型式番号	—		
企業名	日本ライナー株式会社		
問合せ先	電話	[TEL] 03-5638-7433 [FAX] 03-5638-7435	
	E-mail	<a href="mailto:ikedas500@nipponliner.co.jp">ikedas500@nipponliner.co.jp</a>	
	住所	〒135-0007 東京都江東区新大橋1-8-11 大樹生命新大橋ビル7F	
	担当部署	商品本部 商品グループ 池田大	
対策箇所数	全52箇所 【R6.3.31時点】	NEXCO 東日本	21箇所 (柿崎IC～米山IC など)
		NEXCO 中日本	18箇所 (今庄IC～敦賀IC など)
		NEXCO 西日本	13箇所 (大豊IC～南国IC など)
特許関係	意匠登録1648921,1648922,1650311,1650312,1650825 共同意匠権者：積水樹脂(株)		
設置状況	<p>本線</p> 		

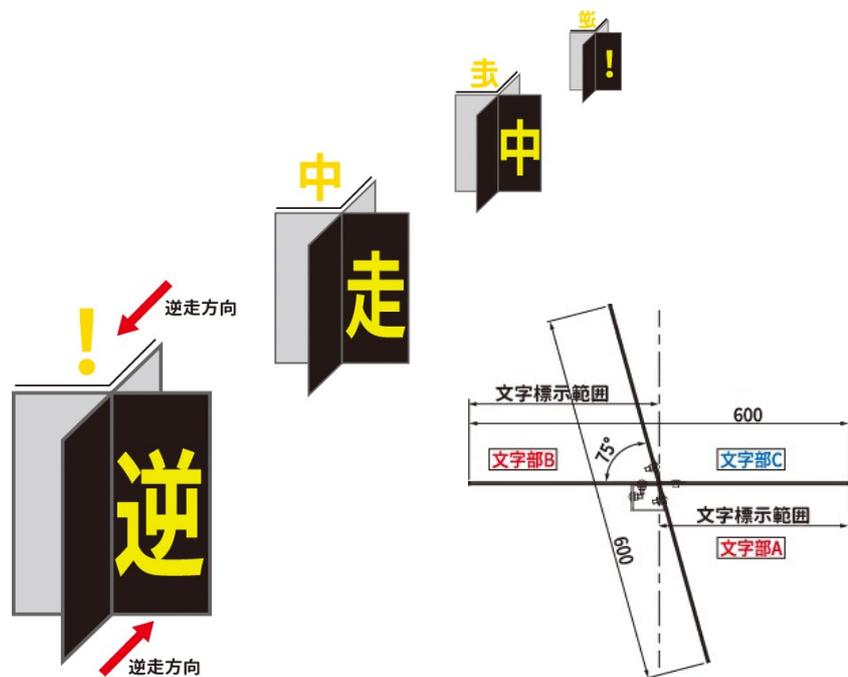
## 1.基本事項 (2 / 3)

### 技術概要

中央分離帯の防眩板を十字型形状にし、「逆走中」等の文字を表示し、逆走車両へ注意喚起するもの。十字型形状。

- ・ 十字型形状とすることで順走時や反対車線からの視認を防止。
- ・ 防眩板として設置することも可能。

### 【防眩版の詳細】



1.基本事項 (3 / 3)

技術の強み・長所

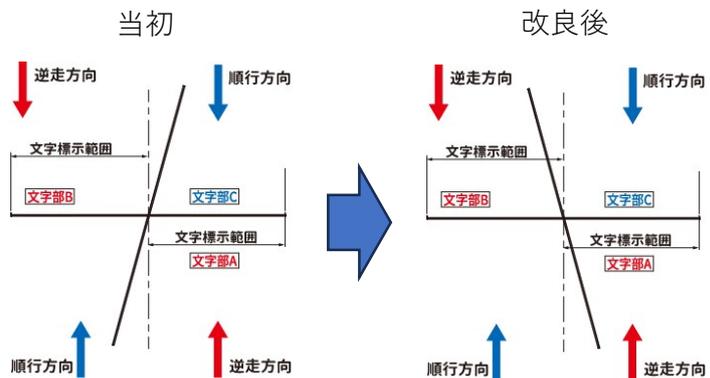
・防眩板として設置することも可能。

技術の短所・留意点

・対策を実施した反対車線の順走車両から逆走の文字が見えてしまうことがあるため、設置箇所の制約として直線部や上下方向が分離しているなど対向車線から視認できない箇所に設置する必要がある。

技術改善内容  
(改良・改善記録)

逆走車用の文字が順行側から見えるという意見があったため、十字の角度を反対に変更した。



2.逆走対策技術としての検証・評価（1／2）

検証箇所（代表例）

首都圏中央連絡自動車道 桶川加納IC 付近

（技術開発企業による調査結果）

技術の認識度

【対逆走車】

・PAでのアンケートで、文字が読めたかを問うた結果、「はっきり見えた」53%、「ややはっきり見えた」23%、「見えた」14%と、見えた者が90%を占める。夜間での視認性は、「確認できた」100%。

【対順走車】

・当該企業関係者へのアンケートで、「反対車線からの見え方」を問うた結果、「見えなかった」12%、「内容は判らなかった」32%、「はっきり見えた」56%。

技術認識時の挙動確認

【対逆走車】

・知見無し。

【対順走車】

・定点カメラによる調査の結果、急制動や急な車線変更等の挙動は確認されず。

・当該企業関係者へのアンケートで、順走車両への影響を問うた結果、「運転に支障がある」34%、「運転に支障がない」66%。

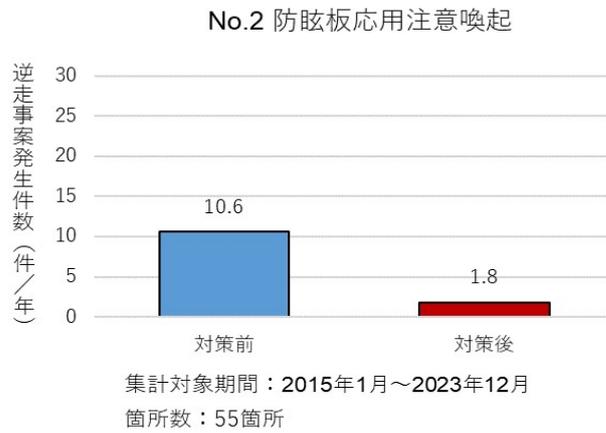
2.逆走対策技術としての検証・評価（2／2）

検証箇所（代表例）

各連絡等施設付近の本線部

（試行設置期間における検証項目及びその評価）

逆走対策効果



費用関係

**価格表**

名 称	タイプ		数量	単位	単価	備考
防眩式逆走注意喚起標示	PA1(S)	片面逆走標示タイプ	1	基	116,000	ガードレール支柱に取付けるもの
防眩式逆走注意喚起標示	PA1(W)	両面逆走標示タイプ	1	基	166,000	ガードレール支柱に取付けるもの
防眩式逆走注意喚起標示	PA2(S)	片面逆走・順行標示タイプ	1	基	166,000	ガードレール支柱に取付けるもの
防眩式逆走注意喚起標示	PC1(S)	片面逆走標示タイプ	1	基	116,000	ガードレールの構造物区間に取付けるもの
防眩式逆走注意喚起標示	PC1(W)	両面逆走標示タイプ	1	基	166,000	ガードレールの構造物区間に取付けるもの
防眩式逆走注意喚起標示	PC2(S)	片面逆走・順行標示タイプ	1	基	166,000	ガードレールの構造物区間に取付けるもの

※送料(離島は除く)を含みます。  
※1セット4文字の場合は4基必要です。

維持管理関係

・現時点では維持管理に関する課題は生じていないが、今後も経過観察するものとする。

留意事項

・対向車線から視認できない箇所に設置する必要がある。

3.汎用性

適用事例①

—

